

スーパーマーケット景気動向調査

2022年9月調査結果（8月実績）
（2022年9月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

9月調査（8月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに小幅に悪化

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-3.1の39.4、見通し判断は前月から-1.8の35.8となり、現状判断、見通し判断とも前月から小幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIともに前月から大きく下落した。生鮮品仕入原価DI、原料価格等の高騰による食品仕入原価DIの高止まりにより、販売価格DIも同様に高止まりが続いている。一方で販売数量減の影響を受けた客単価DIは小幅なマイナスとなった。行動制限のない中での人流変化による影響や、帰省客動向の影響を受けた来客数DIは店舗立地により増減がまちまちとなっている。

カテゴリ動向調査では、前年の緊急事態宣言下との比較による家庭内食品需要の低迷や値上げによる販売数量減により、すべてのカテゴリDIで前月と比べてマイナスとなった。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、景気判断DI、消費者購買意欲現状判断DIの現状判断が悪化をみせたが、その他のDIについては、ほぼ前月水準で推移している。（長期傾向についてはP11参照）

感染が収束しないなかで久しぶりに行動制限のない夏休みを迎え、今月の販売動向を見る限り、自主的な行動自粛ではなく、帰省や行楽に出掛けた消費者が多かった印象を受ける。9月に入り、第7波は落ち着きを見せており、家庭内食品需要は現状の水準で推移する可能性が高い。一方で10月から、さらに食品の値上げ品目が増加し、買上点数の低下傾向を懸念する声も多い。電気代の値上げ、最低賃金の改定、社会保険の適用拡大など厳しい環境が続くなか、どのように利益を確保するかという視点での経営が求められる局面を迎えている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：39.4 (-3.1)
前月：42.5

消費者購買意欲DI
当月：40.2 (-3.7)
前月：43.9

周辺地域 競合状況DI
当月：43.5 (+0.3)
前月：43.2

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：42.2 (-0.6)
前月：42.8

見通し判断

景気判断DI
当月：35.8 (-1.8)
前月：37.6

消費者購買意欲DI
当月：37.7 (-2.4)
前月：40.1

周辺地域 競合状況DI
当月：41.7 (+1.8)
前月：39.9

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：40.0 (-0.9)
前月：40.9

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：-12.8 (-10.1)
前月：-2.7

客単価DI
当月：5.9 (-5.0)
前月：10.9

来客数DI
当月：-15.7 (-1.3)
前月：-14.4

収益DI
当月：-12.0 (-8.2)
前月：-3.8

販売価格DI
当月：20.2 (+0.6)
前月：19.6

生鮮品仕入原価DI
当月：20.4 (+0.7)
前月：19.7

食品仕入原価DI
当月：20.2 (-1.3)
前月：21.5

カテゴリ動向

青果DI
当月：-5.1 (-2.7)
前月：-2.4

水産DI
当月：-20.9 (-2.4)
前月：-18.5

畜産DI
当月：-15.3 (-11.9)
前月：-3.4

惣菜DI
当月：9.8 (-2.2)
前月：12.0

日配DI
当月：-9.3 (-12.1)
前月：2.8

一般食品DI
当月：-15.4 (-8.9)
前月：-6.5

非食品DI
当月：-6.1 (-2.0)
前月：-4.1

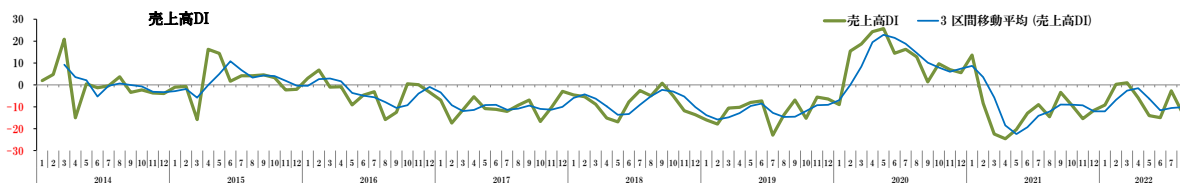
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

前月より下落し、5か月連続マイナス圏

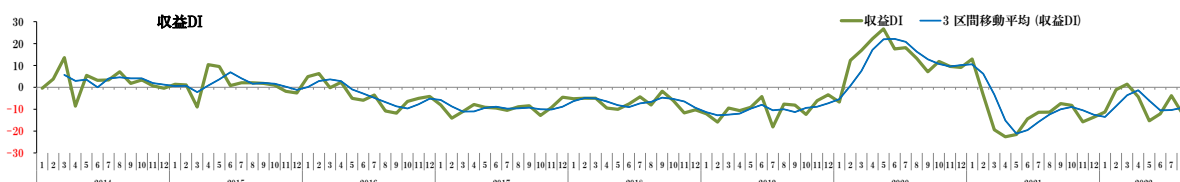
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	8.0	29.5	30.7	29.0	2.8	-2.7
売上高 (当月)	17.0	41.8	18.4	20.6	2.1	-12.8



2. 収益DI

前月から下落し、5か月連続マイナス

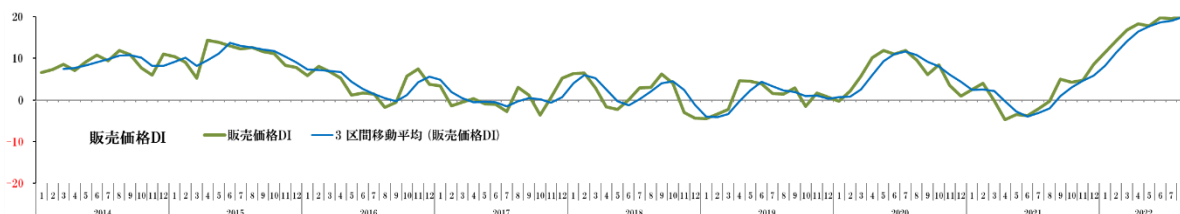
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	11.0	29.1	29.7	24.4	5.8	-3.8
収益 (当月)	17.5	36.5	25.5	17.5	2.9	-12.0



3. 販売価格DI

調査開始以来の最高水準で推移

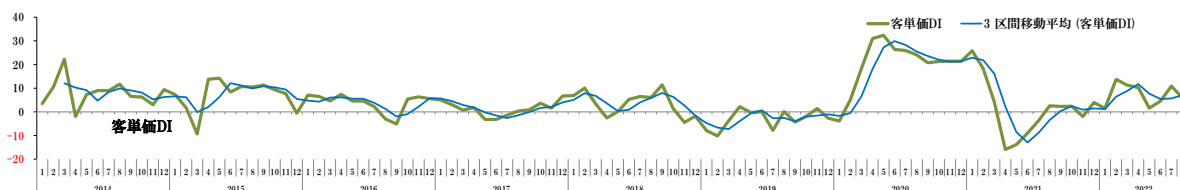
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	1.7	25.1	66.3	6.9	19.6
販売価格 (当月)	0.7	2.9	19.3	69.3	7.9	20.2



4. 客単価DI

前月よりややプラス幅を縮小

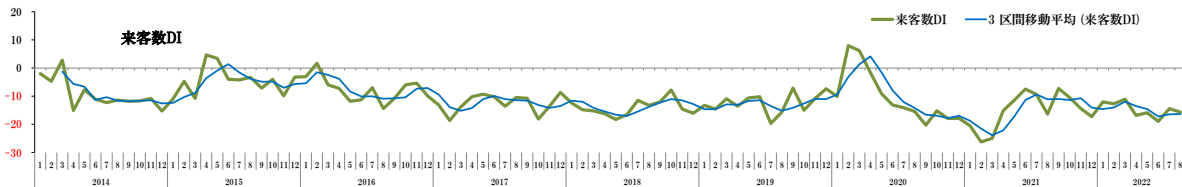
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.0	12.0	36.6	47.4	4.0	10.9
客単価 (当月)	1.4	19.1	39.0	35.5	5.0	5.9



5. 来客数 DI

前月と同水準、マイナス圏での推移が続く

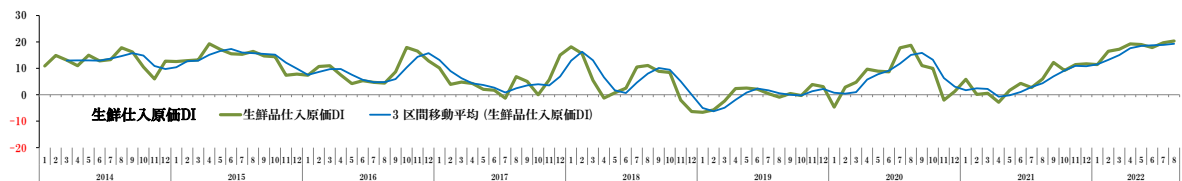
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	13.1	46.9	25.7	13.1	1.1	-14.4
来客数 (当月)	12.9	50.0	24.3	12.9	0.0	-15.7



6. 生鮮仕入原価 DI

前月と同水準で推移、二桁プラス圏で高止まり続く

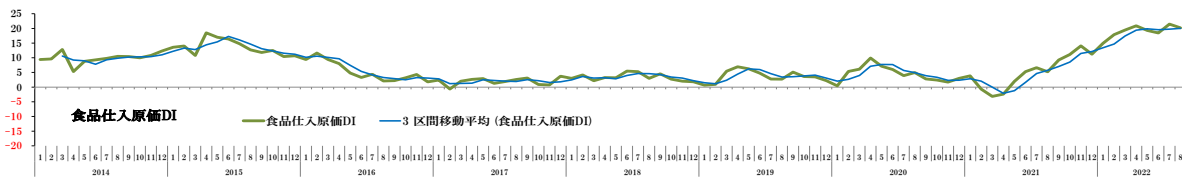
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.6	4.7	24.9	55.0	14.8	19.7
生鮮仕入原価 (当月)	1.5	4.4	19.3	60.7	14.1	20.4



7. 食品仕入原価 DI

前月と同水準で推移、17 か月連続のプラス圏

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.8	4.7	17.1	58.8	17.6	21.5
食品仕入原価 (当月)	2.2	4.4	18.5	60.0	14.8	20.2

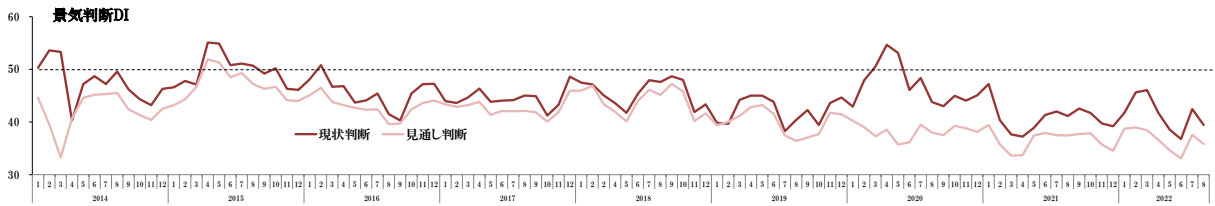


II. 景況感調査 (2014年4月～／周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断、見通し判断共に悪化

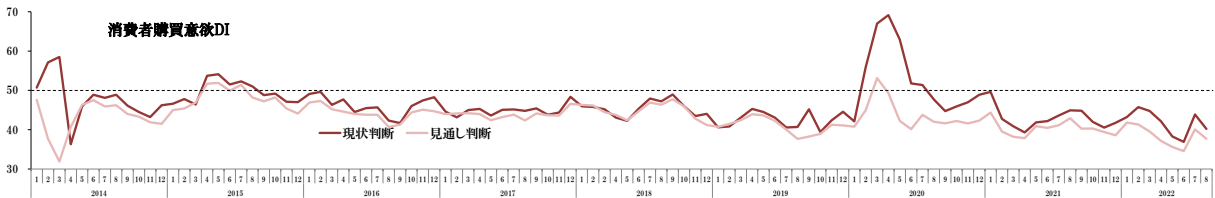
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	3.4	34.1	52.0	10.6	0.0	42.5
【現状】景況判断 (当月)	7.0	37.3	46.5	9.2	0.0	39.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	6.1	42.5	46.4	5.0	0.0	37.6
【見通し】景況判断 (当月)	7.1	47.5	40.4	5.0	0.0	35.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に悪化

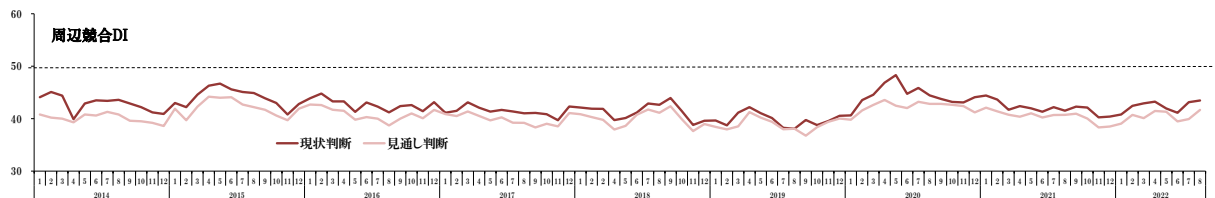
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.7	32.4	55.3	10.1	0.6	43.9
【現状】購買意欲 (当月)	4.2	39.2	48.3	8.4	0.0	40.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.2	41.9	49.7	5.6	0.6	40.1
【見通し】購買意欲 (当月)	4.2	45.8	45.1	4.9	0.0	37.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は横ばい、見通し判断は小幅に改善

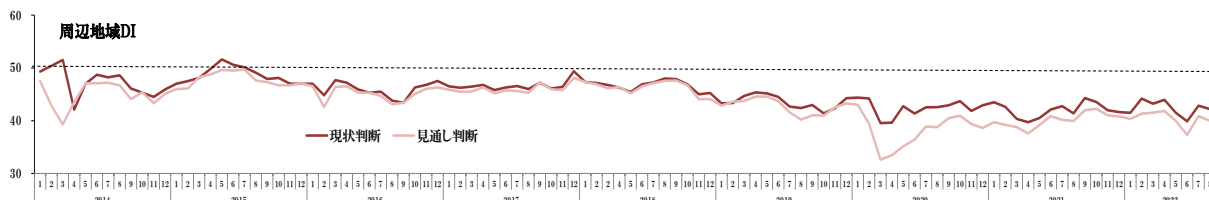
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.4	24.6	68.2	3.9	0.0	43.2
【現状】競合状況 (当月)	5.6	21.1	67.6	4.9	0.7	43.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.0	31.3	62.6	1.1	0.0	39.9
【見通し】競合状況 (当月)	6.4	24.1	66.0	3.5	0.0	41.7



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に前月と同水準で推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	29.8	65.7	3.4	0.0	42.8
【現状】地域景気 (当月)	3.5	30.5	60.3	5.0	0.7	42.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.7	35.4	60.7	2.2	0.0	40.9
【見通し】地域景気 (当月)	3.6	36.4	56.4	3.6	0.0	40.0

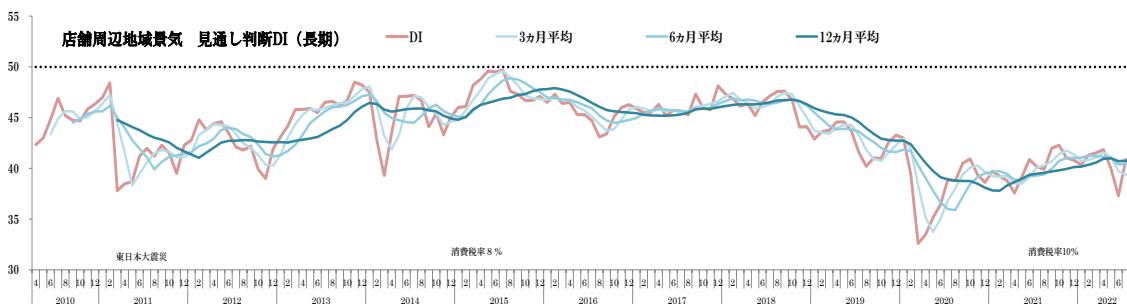
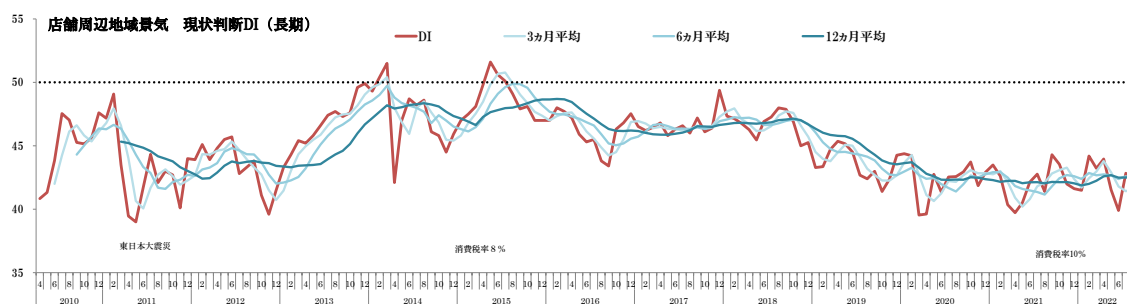


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

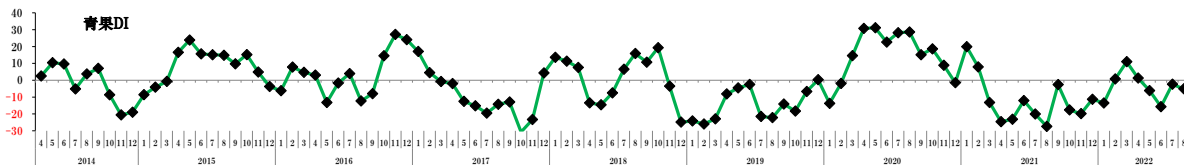
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化したものの、感染が再拡大した7月以降には大幅な改善をみせた。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-5.1（やや不調）

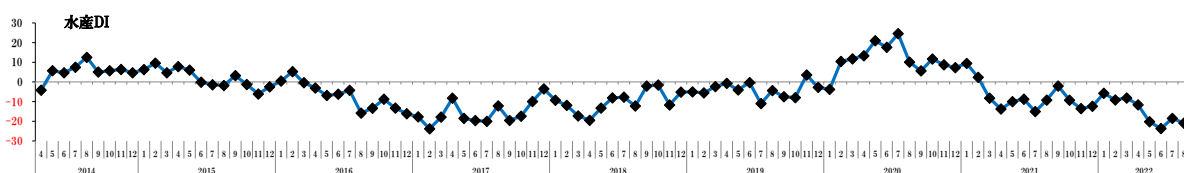
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	7.1	32.0	28.4	28.4	4.1	-2.4
青果 (当月)	8.8	38.7	21.9	25.5	5.1	-5.1



緊急事態宣言下だった前年に比べ、客数減となった影響を受け、やや不調に。タマネギは引き続き高値でも数量増で好調に推移した。気温上昇によりトマト、オクラや生姜など夏野菜、涼味野菜が好調。一方でキャベツやレタスなどの葉物類、キュウリやナスは伸び悩んだ。果物類はカットフルーツが好調に推移、国産果物では涼感のあるスイカや桃、メロンも好調となった。輸入果実は価格高騰の影響で不振となった。お供え用の盆花は前年に比べ回復した店舗が多い。

2. 水産DI：-20.9（かなり不調）

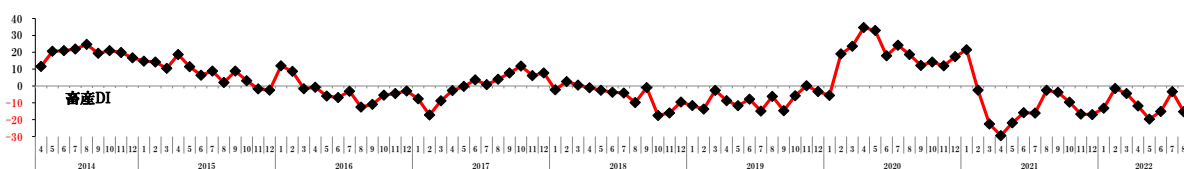
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	21.3	43.8	24.3	8.9	1.8	-18.5
水産 (当月)	24.4	48.9	16.3	6.7	3.7	-20.9



燃料費や養殖飼料等高騰による相場高や、水揚げが不安定な状況が続いているほか、サーモンなど輸入魚の価格上昇が続き、販売に苦心する状況が続く。前年に比べ家庭内食事需要が減少した影響も。刺身類は帰省の増加により回復した店舗も一部にみられたが、高い気温により持ち帰りを敬遠され、なかでもマグロ類が不振となった。「土用の二の丑」があったうなぎは、気温上昇から好調な店舗が多かった。塩干類も値上げが続き点数減、アサリ産地偽装問題の影響が残り貝類は厳しい状況が続いている。

3. 畜産DI：-15.3（不調）

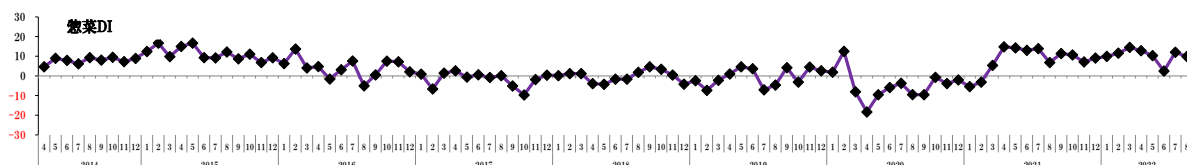
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	10.0	31.2	25.9	28.2	4.7	-3.4
畜産 (当月)	19.1	43.4	19.1	16.2	2.2	-15.3



前年緊急事態宣言下からの反動による家庭内食品需要の低迷や、外食機会の増加などによる買上点数減を受けた店舗が多く、不調となった。相場高騰が続くなかで、牛肉ではステーキ・焼肉用が比較的好調もそれ以外は動きが悪く、国産、輸入共に不振となっている。豚肉は国産の価格が高騰し不振、鶏肉も輸入価格が上昇し動きが悪かった。ハムなどの加工肉は値上げの影響で伸び悩んだ。仕入原価の高騰により利益が圧迫されているとのコメントがみられた。

4. 惣菜DI：9.8（やや好調）

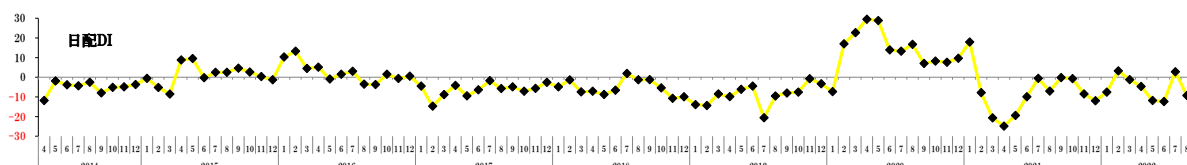
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.6	12.7	27.7	44.0	12.0	12.0
惣菜（当月）	3.8	14.4	29.5	43.2	9.1	9.8



お盆商戦は、前年より帰省が増加し、予約販売を含め、オードブルや寿司類が回復した店舗がみられた。一方で、都市部では人流変化の影響を受けた店舗もあった。行楽需要にもやや回復がみられ米飯類の動きがよかった。調理油の値上げや、猛暑で家庭での調理を避ける傾向で、天ぷら、唐揚げやコロッケなどの揚げ物類、中華惣菜を中心に引き続き好調となった。「土用の二の丑」商材も好調。気温上昇により、サラダ、涼味麺などの涼味商材、おつまみ需要も堅調に推移した。原材料や資材の値上げが相次ぎ、メニューや量目の変更で対応する状況が続いている。

5. 日配DI：-9.3（やや不調）

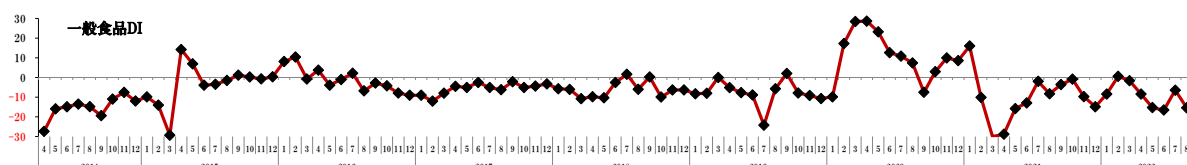
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	3.5	26.5	31.8	31.8	6.5	2.8
日配（当月）	11.1	39.3	27.4	20.0	2.2	-9.3



帰省や外出増の影響、人流変化の影響によって、来店客数動向に好不調が大きく左右される結果となった。値上げのあったパン類も一品単価が上昇し引き続き好調に推移した。中旬の、前年より高い気温によりアイスやチルド飲料をはじめとする涼味商材が好調となった店舗が多かった。前年好調であったチルドピザ、キムチなどの発酵食品、チーズやバターなどの乳製品、機能性ヨーグルトには落ち着きがみられる。帰省客の増加した店舗では和菓子類や土産物が好調とのコメントもみられた。

6. 一般食品：-15.4（不調）

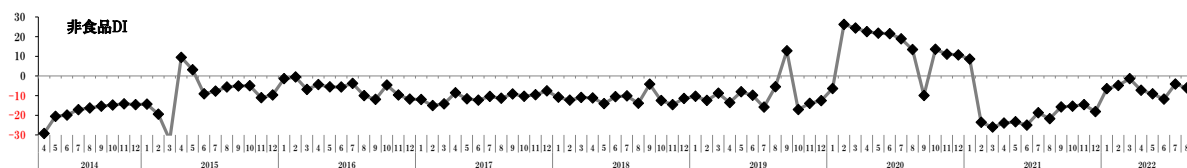
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	8.8	35.3	31.8	21.2	2.9	-6.5
一般食品（当月）	16.2	47.8	21.3	11.0	3.7	-15.4



帰省や外出増の影響、人流変化の影響によって、来店客数動向に好不調が左右される結果となった。値上げ、家庭内食事需要の縮小による販売数量減を指摘するコメントも多い。高い気温で推移した地域では、飲料や素麺関連などの涼味商材、行楽需要の回復により菓子類が好調となった。米類は相場安が続くが買上点数は伸びず不調が続いている。お盆時期には、酒類や珍味などのつまみ類が好調となった店舗が多いが、お盆明けは伸び悩んだ。

7. 非食品 DI：-6.1（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	10.2	31.9	30.1	19.3	8.4	-4.1
非食品（当月）	13.6	33.3	24.2	21.2	7.6	-6.1



感染再拡大傾向により、マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品が好調に推移した。気温が高めに推移し、殺虫剤や日焼け止めなど夏物商品、紙コップや割り箸などの行楽、アウトドア関連も好調に推移した。緊急事態宣言下だった前年とは異なり、行動制限のない夏となり外出機会も増え、洗剤などの家庭用品やトイレトペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品の動きが悪かった店舗が多い。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2022年9月調査（8月実績）キーワード TOP3

1. お盆時期の帰省客、人流変化による来客数動向
2. 買上数量減（緊急事態宣言からの反動）
3. 買上点数減（価格上昇）

（参考）2021年9月調査（8月実績）キーワード TOP3

1. 家庭内消費需要堅調
2. 青果相場高
3. お盆時期の動向（帰省客減少、高温）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8月実績速報版 143社
 7月実績確報版 179社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp